

平成25年度

湯沢砂防だより

No.46

平成25年12月6日

—空中写真判読の実習を行いました—

国土交通省 湯沢砂防事務所

湯沢砂防事務所では、豪雨や地震などにより山地及び丘陵地の斜面の一部が表層土のみならず、その下の基盤まで崩壊する“深層崩壊”について、空中写真の判読(立体視判読)による、深層崩壊発生跡地を把握する調査を行っております。

今回職員自らの技術力の向上を目的に、“空中写真判読技術”の実習を行いました。今回の実習を通じて、地形特性把握技術の向上を図り、深層崩壊発生箇所の把握に活用できればと考えております。

○空中写真判読とは

重複する2枚の空中写真を、実体視鏡を用いて立体的に見ながら、地形を読みとる作業です。この作業により崩壊跡地を判読していきます。

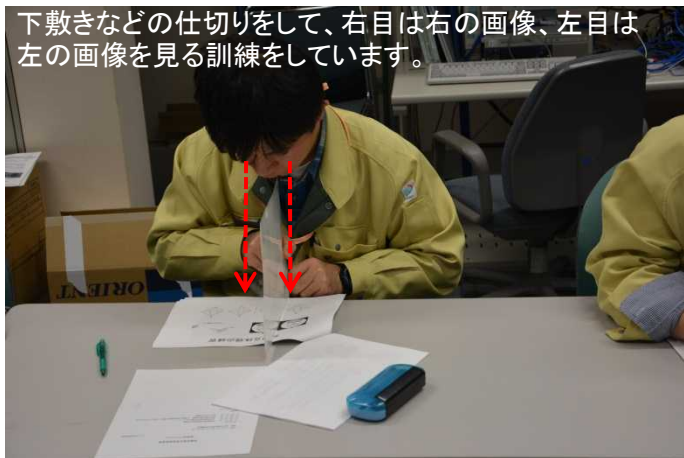
撮影された空中写真。これを重ねてみると立体的に見ることができます。



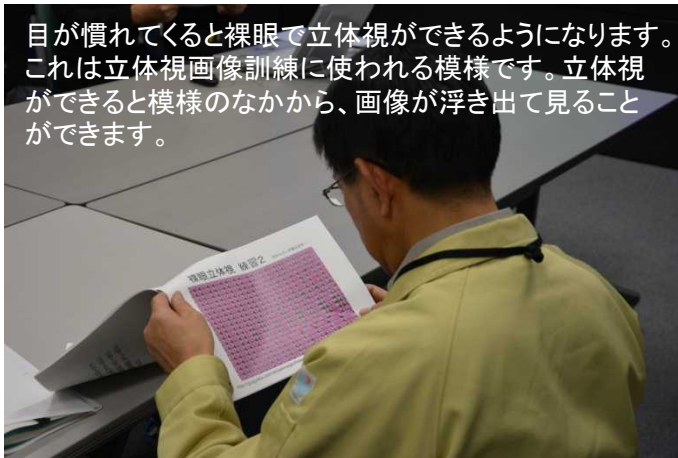
①裸眼立体視の練習

立体視は、右目で右側の画像を、左目で左側の画像をみることにより、立体的に画像を見る方法です。裸眼で立体的に見るにはちょっと訓練が必要です。

下敷きなどの仕切りをして、右目は右の画像、左目は左の画像を見る訓練をしています。



目が慣れてくると裸眼で立体視ができるようになります。これは立体視画像訓練に使われる模様です。立体視ができると模様のなかから、画像が浮き出て見ることができます。



②実体視鏡を用いた空中写真判読

立体視鏡を使った判読練習。

裸眼立体視と違い容易に立体視ができます。実際の作業は、この実体視鏡を使い地形を判読していきます。

